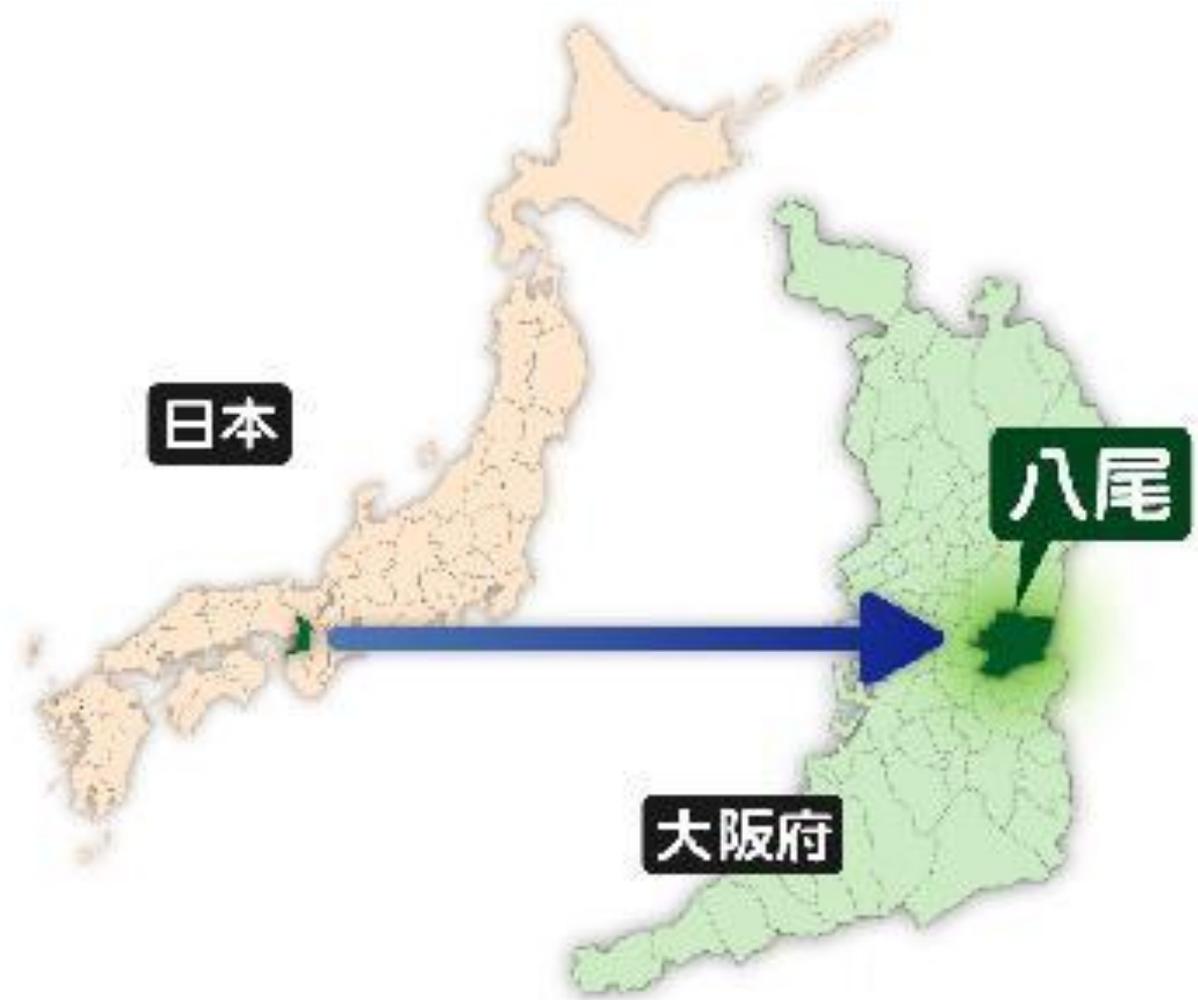


八尾市（中小企業・小規模企業 振興会議先進都市）の取組紹介



令和5年3月31日
八尾市 商工振興課

「八尾市の紹介」



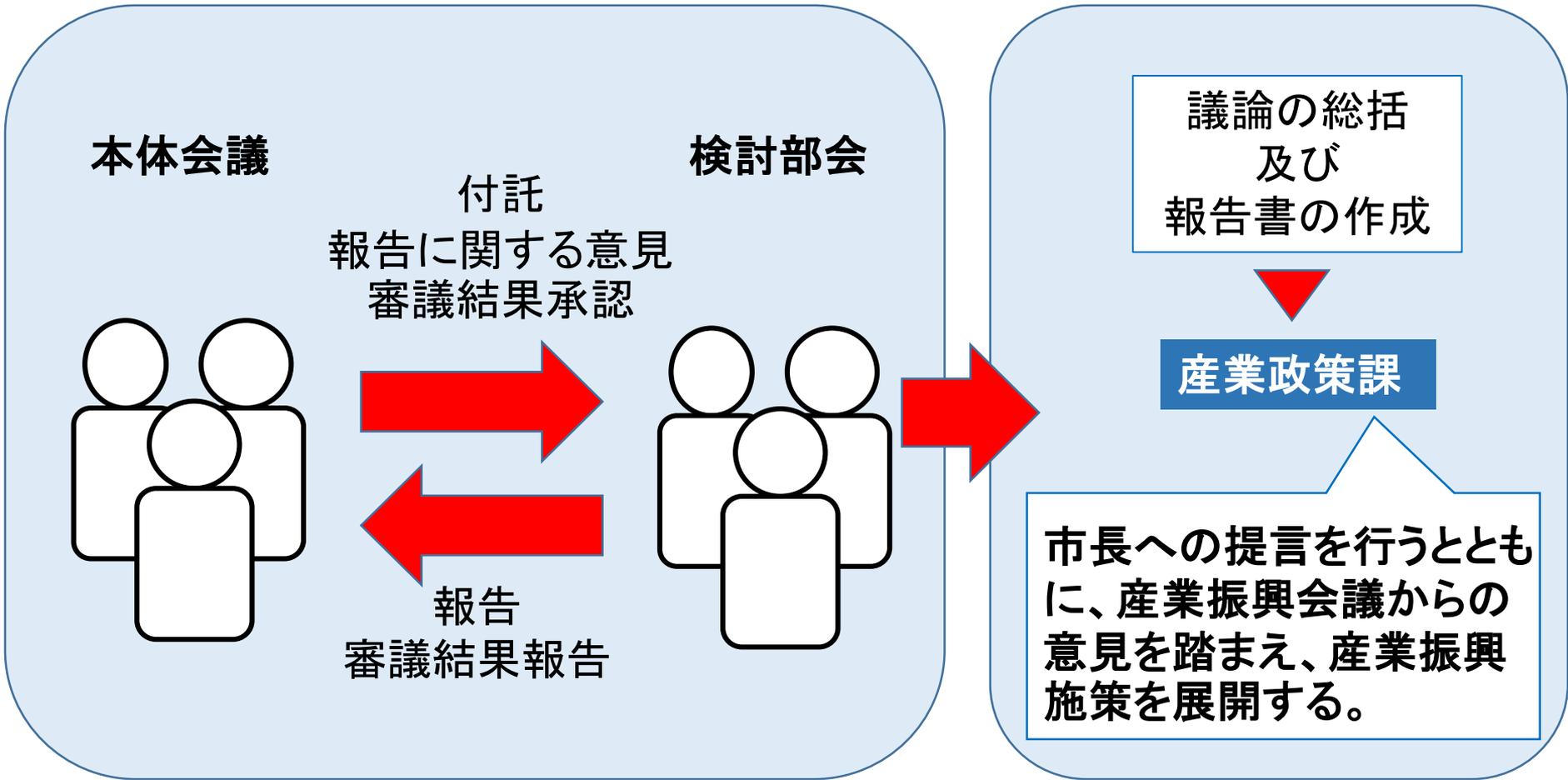
■人口 261,520人 (R5. 2末)

■面積 41.72km² (R5. 2末)

■世帯数 127,153世帯 (R5. 2末)

■アクセス 大阪市まで電車で約30分

八尾市産業振興会議イメージ図

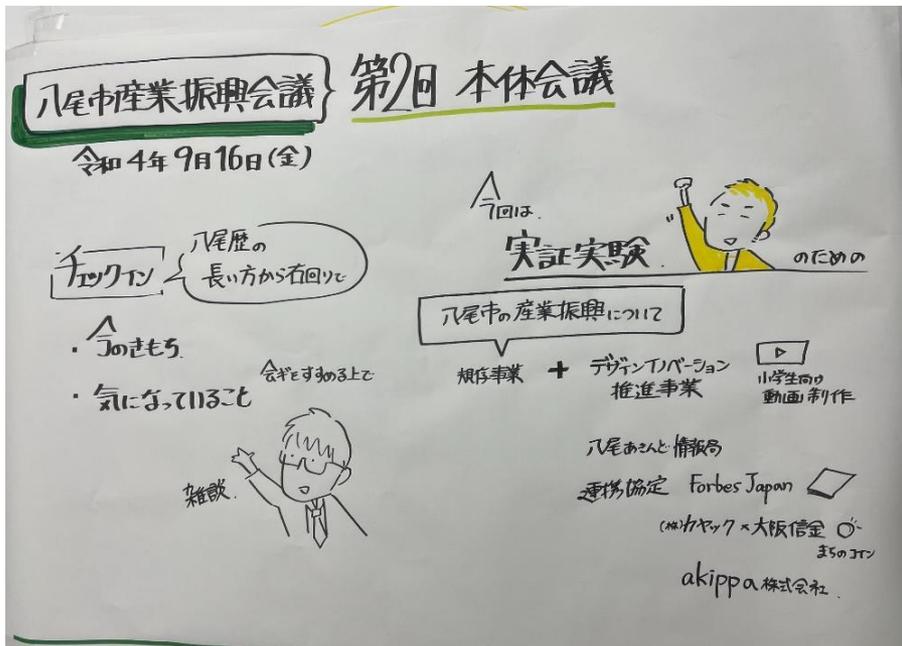


呉市との違い①

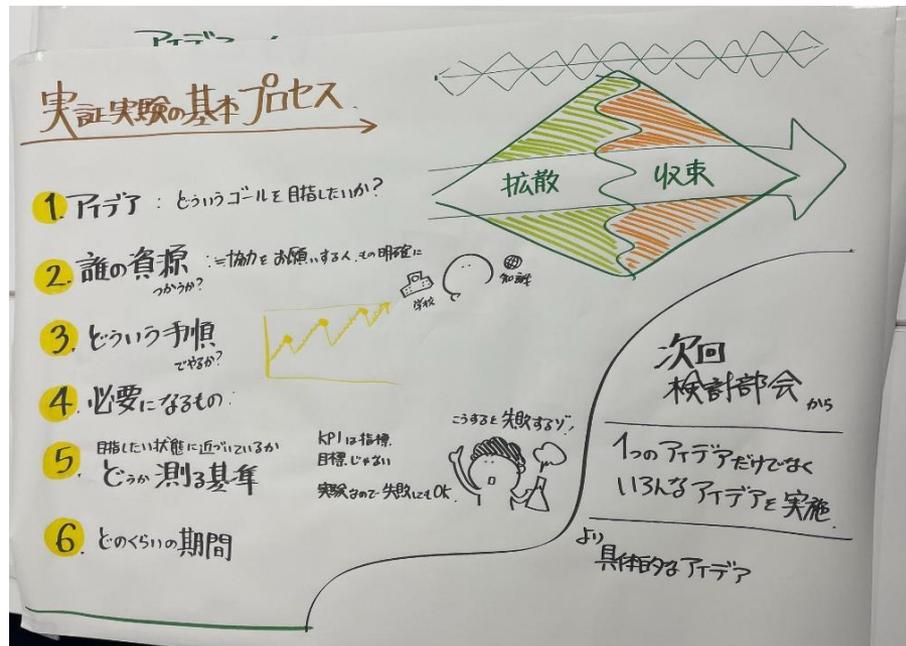
1 会議の運営

- ・民間企業にファシリテートとグラフィックレコードを委託

<グラフィックレコード例①>



<グラフィックレコード例②>



呉市との違い②

2 調査・研究テーマ

- ・ 2年に1回テーマを決定。その決められたテーマに対して振興会議の委員を決定

【平成30年度・令和元年度テーマ】

10年後の八尾の産業について

【令和2・3年度テーマ】

ニューノーマルな時代における価値創造について

【令和4・5年度テーマ】

八尾の未来を共創する～糠床モデル（※）のチャレンジ～

※議論により様々なアイデアが蓄積されていくことを八尾市では糠床モデルと呼んでいる。



◆主な産業施策の実施状況

- ・ものづくりに関する子ども向けのワークショップやプロモーションビデオの作成
- ・中小製造業の研究・技術開発、経営革新、人材育成、販路開拓支援などの相談窓口設置及び大学・公的支援機関への橋渡し
- ・小中学生を対象とした工場見学の実施
- ・起業塾の開催
- ・次世代経営者養成講座の開催
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により離職を余儀なくされた市民等を雇用した事業者に対する支援金給付

呉市との違い③

3 委員の選定

- 商工会議所や中小企業家同友会等の団体については、団体が推薦した人が委員に就任
- それ以外の委員については市民向けに公募をかけ決定。応募には小論文の提出を義務づけており、その内容を審査し、選定

4 振興会議の状況

- 議論で出たアイデアから施策案を考え、まずは実証実験という形で実施
- 実証実験の内容は振興会議内で委員が検証し、随時修正



<会議の様子①>



<会議の様子②>



みせるばやおとは

- ◆八尾市は製造業中心のものづくりのまちであり、そのものづくりの魂を次世代にも紡ぐため、そしてこの地域の魅力を後世の子どもたちにも伝えるために、平成30年8月8日にオープンした施設
- ◆地元中小企業間の交流も目的としており、その交流から様々な製品の開発等も行っている。

<看板>



<子ども達の遊び場>



みせるばやおの取組①

■創業支援

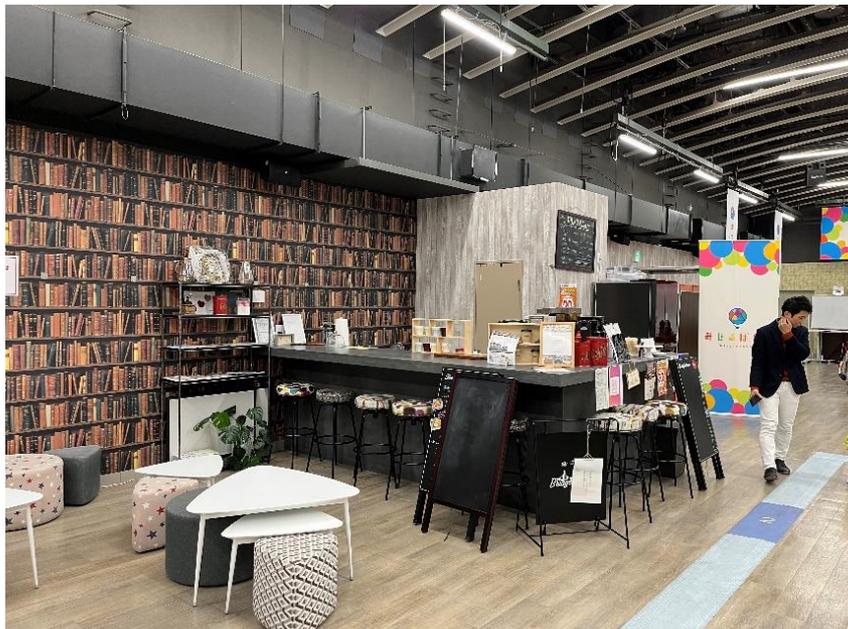
◆カフェ店の新規創業を検討している会員が施設の一部で試験的にカフェの営業を実施

➡ 施設の来場者と関係を構築することで、店舗開店前からの固定客獲得！

◆創業希望者向けに、会員が講師を務めるセミナーを実施

➡ 市内の身近な起業家の話を聞き、気軽に質問できることで、創業のヒントをより掴める！

<創業希望者のカフェ>



<セミナーの様子>



みせるばやおの取組②

■人材育成

◆会員間で興味のあるテーマについてセミナーを実施

➡ 情報獲得やスキルアップ、新たな出会いの場となっている

◆会員企業間同士の同期が集う機会を提供

➡ 企業を超えて若手の横の繋がりを強化

■データの共有

◆施設内ショップの販売状況や来場者、セミナー参加者の情報をクラウド上で管理。
会員であれば誰でも閲覧可能にし、データを共有

➡ 会員企業が情報を新たな経営戦略に役立てれる

<施設内ショップ>



みせるばやおの取組③

■会員間のコラボ商品①

◆会員同士で「汚れ取りとワックスがけが同時にできる商品があると便利」という話が出たことをヒントに商品開発

➡ 木村石鹼工業(株)と(株)友安製作所が共同で商品を開発。
ラベンダーやひのきの香りも楽しめるという付加価値も加え、人気商品に！

＜木村石鹼×友安製作所コラボ商品＞



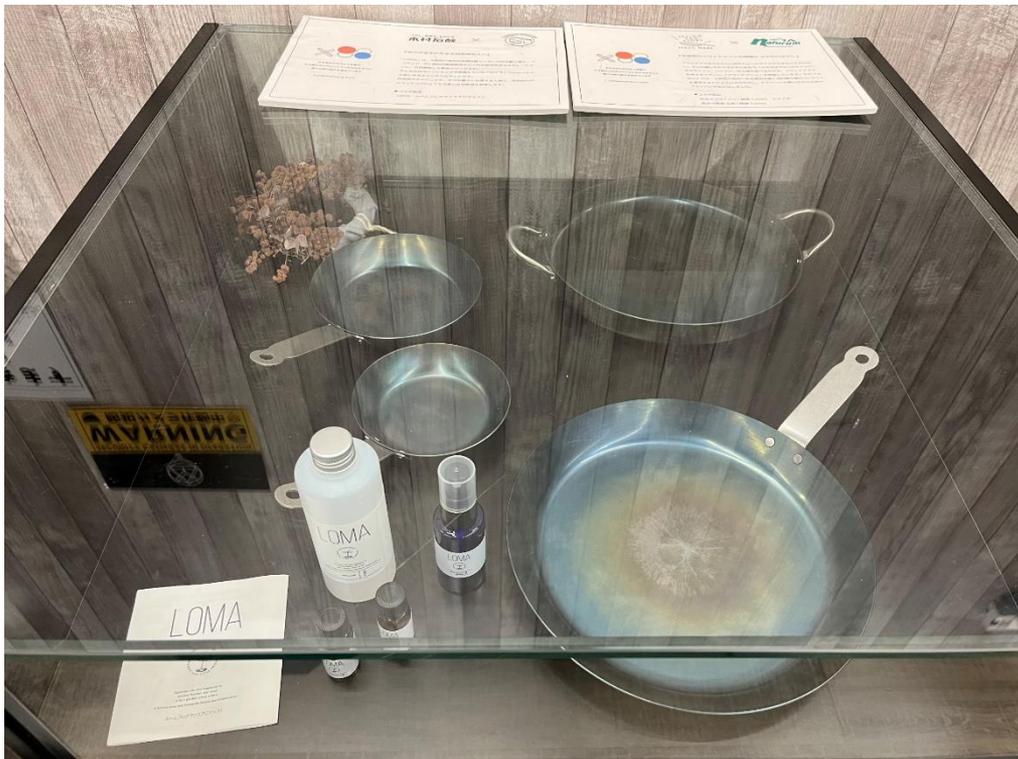
みせるばやおの取組④

■会員間のコラボ商品②

◆近畿大学が藤田金属(株)にデメリットを改善した新たな鉄フライパンの開発を提案

➡ ヘラ絞り加工技術を用い、メリットそのままに軽量の鉄フライパンを開発。
キャンプ用品としての引き合いが多数あり、大ヒット商品に！

<近畿大学×藤田金属コラボ商品>



視察の感想

■八尾市

- 調査・研究テーマが幅広くスケールが大きいが、委員がそのテーマについて気兼ねなく議論し、積み上げたアイデアから施策案を作り、実証実験に繋げていくという、良い循環が構築されていた。
- 議論が活発に行われやすい雰囲気を作ることができる、司会進行のプロフェッショナルである民間企業へのファシリテートの委託は有効であると感じた。

■みせるばやお

- 会員企業間での交流を活発に行うことにより、幅広い分野で地元企業の成長が促されていた。
- 八尾市の令和4・5年度の産業振興会議のテーマである「糠床モデル」を会員間の交流により実行できる場であった。このように中小企業・小規模企業振興会議で出たアイデアを実行する場や、企業間交流、地場企業のアピールを行う場の構築は重要であると感じた。

